

富山市ファミリーパークの外来魚駆除について

小杉 潤（富山市ファミリーパーク）

はじめに

富山市ファミリーパークは富山市の中心部から西へ約4kmの「呉羽丘陵」に位置する動物園である。昭和59年に開園し、日本産動物を中心に91種約778点を飼育展示している。園の敷地面積は約33ha。園内には「六泉池」と呼ばれる灌漑用のため池があり（池面積約2.58ha）ここにはかつてモツゴ、オイカワ、ウグイ等里山を代表する淡水魚類が数多く生息していた。

しかし平成12年頃からオオクチバスが見られ始め、平成21年6月にはブルーギルの生息も確認され、この六泉池には現在、大型のコイやフナをのぞいて在来魚の姿はほとんど見られなくなった。この間、何度か外来魚の駆除を実施してきたが、その取り組みについて紹介する。

1. 駆除の取り組みについて

駆除は2通りの方法で行った。ひとつは釣って駆除する方法、もうひとつは池の水抜きによる方法。

釣りによる駆除はこれまで4回実施した。その目的はオオクチバスの生息状況調査（体長、食性）として行ったもので、このうち2回は駆除のために一般募集して行った。一方、池の水を抜いてしまう方法は過去2回、約2ヶ月抜いた場合と7ヶ月抜いた場合で検証したが、その2年後には再びオオクチバスやブルーギルが発生してしまった。これらのことから、今のところ池の外来魚駆除には有効な手だてがないままである。

2. 駆除と外来魚問題の啓発活動

一般募集した外来魚駆除は「よみがえれ里池プロジェクト」と題し、地元の報道各社や団体と連携して広く参加者を募り、釣りによる駆除を2回実施した。行事では駆除するほどの釣果は得られなかったが、親子で体験をとおして外来魚問題について考えてもらう機会が提供できたものと感じている。また、釣った魚を食べることで食材になる資源として知ってもらうこともできた。このように、普及啓発活動においては市民を対象に一定の効果があったと思われる。

3. 課題

当園の外来魚駆除はまだ手を付け始めたばかりで、今後は効率的な駆除方法を取り入れる必要がある。また、動物園という施設であることから、より多くの入園者に身近な外来魚問題について啓発する活動を検討し、実施したい。